

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600116		
法人名	株式会社 赤坂台介護サービス		
事業所名	グループホーム喜ら里 (1F)		
所在地	愛知県豊川市赤坂町北平山51-5		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JivgyosyoCd=2392600116-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「喜ら里(キラリ)とかがやく一日をみなさまと共に」をモットーに、利用者様と職員が輝ける一日を過ごせるように努めております。利用者様へのおもてなしの心を忘れずに、職員自身も生き生きと楽しく対応しております。地域のボランティア様の協力を頂きながら、外出し社会参加に心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の奥まった丘陵地の自然環境に恵まれた複合施設の一角に、今年の1月にオープンした施設である。管理者(法人代表の娘婿)は利用者・職員がともに一日が輝けるような施設を目指し、新体制作りで意欲をもって取り組んでいる。代表の自宅近くであり地域との交流も盛んに行なわれ応援体制が整っている。「喜ら里クラブ」のボランティア25名が頻りに来所しており、外出支援、畑作り等暮らしを支えている。利用者も地域出身者が多く、地域密着そのものである。複合施設間の交流も盛んであり、馴染みの関係や新しい馴染みの関係が築かれつつある。職員間のチームワークもよく、職員全体で利用者一人ひとりを理解し把握してサービス向上に生かすように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「喜ら里(キラリ)とかがやく一日をみなさまと共に」を理念として、職員は利用者様とともに楽しくアットホームに過ごせる環境づくりと、その意識の共有に努めている。	法人の理念として定められた「利用者、職員の毎日がキラリとかがやく一日になるように」を旨とし、関連施設全体で取り組んでいる。職員ヒアリングにおいて、職員の一部にはやや理解不足の様子がみられた。	職員全員がホーム理念を理解し、日々の介護に活かせるよう一層の努力を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手品師や音楽療法の先生など複数のボランティアなどの訪問が定期的に行われている。「喜ら里クラブ」というボランティアの支援で、地域への外出やイベントも頻繁に行われ、地域との密着は強い。	地域ボランティア「喜ら里クラブ」との頻繁な交流があり、外出や畑の収穫等、生活支援への参加がある。保育園行事への参加の他、園児の来所と相互に行き来があり、ホームで子供たちの発表会も開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお祭りやイベントにおいては、地域の一般の方にも参加してもらい、認知症に対する理解を深める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や、家族様からの意見はすぐに実践で反映させ、サービス向上へつなげるよう意識している。地域のボランティアや民生委員にも現状を報告することで、運営への理解をして頂いている。	奇数月に、併設小規模多機能事業所と合同で開催しており、地域包括支援センター、自治会長、老人会、ボランティア会長、利用者、同家族、知見者等参加メンバーも多く、活発な討議が行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、市の介護高齢課に相談し、必要がある時は足を運んでいる。また、市の連絡協議会にも定期的に参加し、情報交換や研修などの取り組みを行っている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が毎回出席しており、ホームの実情は伝わっている。毎月開催の市主催の介護事業者連絡協議会への参加や、随時開催の研修会等に参加して協力関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じて、職員間で利用者様への拘束禁止についての意識の共有は行っている。利用者様の意思を尊重することで、転倒、徘徊のリスクはともなうが、職員間での連携を強化し、拘束とならないような見守りを行っている。	夜間、防犯のための施錠は行うが、日中はユニット間や玄関扉は開放している。意識の統一を図るため、ミーティング時に身体拘束に関する勉強会を行っている。ベットの撤去し、ベッドを下げるなどの工夫をして身体拘束につながらない転倒防止策を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の利用者様との関わりの中で、ささいな身体や言動の変化にも注意を払い、職員間でしっかり情報を共有することで、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットで取り寄せた資料で学ぶ機会を設けている。必要時には制度を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、面談を行い、しっかりと説明をすることで利用に対する理解を頂いている。契約後も不明な点については、随時、質問や相談を受け、利用者様やその家族の理解の向上に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方から意見要望があった場合、ミーティングや業務日報などを通じて申し送り、職員間で共有を行っている。運営推進会議に利用者様、家族ともに参加してもらい、意見を頂いて反映に繋げている。	家族アンケートでは好評を得ている。運営推進会議においても積極的な意見が聞かれ、意見が言い易い環境がある。殆どの家族は毎月来訪しており、来訪時には意見・要望を言い易い雰囲気作りがみられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や困難な場面对応については、随時報告をしてもらっている。職員間での定期的な情報共有ミーティングもを行い、日々の業務に反映させる環境を作っている。	2ヶ月ごとに全職員によるミーティングを行い、経営側と職員との良好な関係を継続し、業務に関して提案や意見が言いやすい環境を作っている。職員提案から、記録用紙の変更や備品の整備・改善が実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課において、昇給、賞与を決めている。職員との面談時に、要望や悩みなども聞き、よりよい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数によってアドバイスをしケアの実践に努めている。困っていることは随時、相談をできる環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社や施設開設前研修の受け入れや、他者の会議に参加させてもらうことで、勉強・交流の機会がある。ケアマネなどの施設見学や訪問がある。合同の防災訓練もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず面談を行い、利用者様ご本人の生活歴や心身状態を把握し、希望や要望を聞く機会を設けて、不安の軽減に努めている。利用前には、全職員が基本情報を把握し、受け入れ態勢を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、家族からの希望や不安、心配ごとなどを聞き取り、適確なサービスがすぐに行える態勢を整えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の聞き取りで、利用者様に応じた適確なサービスが行える対応に努めている。他のサービス利用については、関係事業所の担当者を含めた話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事、レク等の日常生活を通して利用者様、職員、利用者様同士がお互い協力したり、気をかけたり、ともに暮らす者同士で良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族の方の思いや、家族の関係を理解した上で、随時相談、話し合いを行うことで、利用者様本人を支えていく為の協力関係の構築に努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に隣接していたデイサービス利用者との交流や、知人、友人の訪問で談話をされる機会も多く、これらが行いやすい環境づくりや支援に努めている。	地元出身者や複合施設からの移住者が多く、ホーム内での交流は盛んに行なわれている。グランドゴルフやゲートボール仲間が訪ねて来ており、馴染みの人との関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考慮した上で、座席の配慮や、支障なく関わり合えるような環境づくりに努めている。重度の認知症の方は特に孤立しないよう、意識して関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も、家族から連絡があれば、随時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の業務日報や申し送り、定期的なミーティングなどを通じて利用者様からの言葉や思い、職員の気づきなどを共有し合い、話し合うことで、実践に繋げるようにしている。	日常の関わりの中で利用者のつぶやきや表情から意向を汲み取り、業務日報の申し送り事項やケース記録に記載して共有を図っている。職員はスキンシップを大切に、寄り添いながら話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の利用者様との会話にしっかりと耳を傾け、ご本人の生活歴や趣味・嗜好などを把握し、理解に努める。ご家族の来所時などに、利用の状況、経過等を話す機会ができるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向をもとに、「暮らしまとめシート」を作成し、職員は利用者様のできること、できないことに着目し、把握した上で、日々の介助や支援に携わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日々の変化やモニタリングを通じて、家族や利用者本人様との話し合いで課題を挙げ、それに即した介護計画を作成するように努めている。	利用者の言動やつぶやきを踏まえ、計画作成担当者が主となって介護計画を立案している。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、家族へは来訪時に説明を行っている。目標をケース記録簿に記載して確認を図っている。	介護計画作成においては、利用者・利用者家族の個別具体的な要望・意向の反映が盛り込まれるよう、さらなる工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとにケース記録、バイタル表、食事量、サービス内容の変更、連絡事項などを記入し、職員間の情報共有を行っている。それによるプランの見直しも同時に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ごとの心身状況、家族の介護状況の変化にも目を配り、随時適切な介護サービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じたイベント(遠足、祭り、畑作業)、外出(外食、買い出し、散歩)など、地域のボランティアの方には適宜、支援して頂き、地域とは深く関わりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望したかかりつけ医、もしくは専属の病院の往診という形をとっている。通院は家族対応。特変時は必要に応じ職員が受診に同行、説明し、医師より適切な指示を仰ぐ。	毎月2回協力医の往診を受けている。必要に応じて臨時往診があり、歯科の往診もある。従前からのかかりつけ医の受診は家族対応に依っているが、医師への情報提供、家族からの情報を把握して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は看護職員に報告し、対応している。医療面では、看護師より家族に連絡し、受診する場合は適切な指示を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院の相談員、看護師に伝えている。入院中は必要に応じ訪問し、退院に向けた情報交換や相談を行っている。職員間でも入院利用者様の情報共有をはかり、退院後の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に利用者様の家族には終末期についての希望や意思の確認を行っている。主治医、各関係事業所と連携を図りながら事業所としてできる支援に取り組んでいる。	利用契約時に、重度化・終末期についてのホームの出来る範囲を明確に伝えているが、遭遇した事例がないため今後の課題になっている。看護師資格者が6名勤務しており、専属医との信頼関係も厚く安心感があるが、職員には不安感もうかがえる。	やがて訪れるであろう事態を想定して、利用者・家族、職員に対してホームの方針・意向を周知・敷衍しておくことを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングを行い、利用者様の急変時の対応について話し合いや周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時には地域のボランティアの参加、協力を求め、常日頃より協力体制ができていいる。訓練後は各職員が訓練の反省、改善点を挙げるなどして今後活かすようにしている。	年2回避難訓練を中心にした防災訓練を実施している。9月には大地震発生を想定した市の合同避難訓練が、自治会長や近隣住人の参加を得て実施された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに対し、人格や個性を尊重し、ご本人の思いに寄り添う声掛けや対応、支援に努めている。	利用者の気持ちを尊重し、利用者の意向に添った支援をしている。職員は、上から目線にならないように注意しており、決して無理強いはいはしない支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導ではなく、利用者様本人が希望、要望を言いやすい環境づくり、雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	工作、ゲーム、気の合う方との会話など、利用者様一人ひとりが希望する事、楽しみにしている事を把握し、個々のペースに合わせた支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や環境に応じて、個々に合わせた身だしなみの支援、見守りを行っている。自己での判断が難しい方は、ワンパターンにならぬよう、定期的な服の入替、確認などの支援を随時行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で手作りであり、利用者様の嗜好、体調などに合わせて献立を変えて対応している。調理の一部や片付けなど、できる範囲内で行うことは自分でしてもらっている。	利用者は個々の力量に合わせて、下準備、テーブル拭き、食器拭き等の役割を果たしている。職員も同じテーブルで食事を摂り、食卓を囲んで和やかな雰囲気がある。誕生日のケーキや菓子作りを楽しむ催しもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様ごとに適切な食事量、食事形態についての名札を作成し、全職員が把握できるようにしている。食事量は毎回記録し、体調に応じて食べやすいよう、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品の準備、保管は事業所にて行い、自己にてできる方には声掛けと見守り、自己ケアが困難な方は程度に応じて、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、介助が必要な方には声掛けと誘導、自立している方は見守り、様子観察にて排泄感覚や失禁の有無を確認し、個別の適切な排泄支援に努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用したさりげない誘導を行っている。夜間ポータブルトイレの利用者が、支援の効果で夜間でもトイレでの排泄に改善された事例がみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様ごとに排便状態や体調、服薬状況等を把握し、水分補給や運動、服薬等で便秘を改善できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や順番等に配慮して行っている。拒否のある方は、タイミングや声掛けを検討し、職員で統一を図り支援している。一人ずつ、ゆったり入浴を楽しんでもらうよう努めている。	週3回、一日おきの入浴を基本としているが、希望により柔軟に対応している。沐浴剤を使用し、匂い、色を楽しめる配慮も行っている。入浴拒否者には、誘導タイミングや同性介助に努める等の工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や個人の休息の取り方など、利用者様本人の希望や意見を尊重している。食後や体調が優れない時など、本人の気分に合わせて休息しやすい環境づくりや支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに、服薬情報を個人ファイルに保管しており、全職員が把握できるようにしている。日々の状態を記録し、薬が変わった時は家族と連携を図って症状を報告するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとに暮らしのなかでのこだわりやできることに着目し、得意なことやできる事は積極的にやって頂く環境を提供し、参加してもらっている。毎月、外食や外出が必ずあり、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気分に合わせて、戸外へ散歩に出かけるようにしている。利用者様の要望に合わせて、外食、外出などのイベントを企画している。行事の時は、ボランティアの方に協力を頂き、地域との繋がりも深めている。	日常的には、近所の公園散歩、庭の水撒き、畑作業等により気分転換を図っている。恒例のドライブでは、ボランティア支援の下に季節の花の観賞や動物園、味噌作り体験等、様々な外出がある。外食ではユニットごとに利用者の希望を聞いて出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い出し時は、利用者様ご本人の希望をお聞きして、買い物をしている。外食時も、ご本人が食べたいものを選んでもらって食事を楽しめる環境づくりの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に応じて、利用者様が作成した壁飾りを掛けて季節感を感じて頂けるようにしている。利用者様が心地よく過ごせるような環境の提供を常に心がけている。	オープンの対面式台所では、音、匂い等が生活感を醸し出している。掲示された外出時の写真や利用者の作品が温かい雰囲気を演出しており、職員と共に作成した掲示物が季節感を漂わせている。毎朝、利用者と職員が協力して掃除し、清潔を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様ごとに希望に合わせて、一人でくつろげるよう座席の配慮をしたり、気分次第では居室でもゆっくり休んで頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた枕や掛物、置き物などを配置することで、少しでも自宅にいた時と同じ環境に近づけることで穏やかに過ごせるような工夫をしている。	居室は造り付けの箆笥が設備されており、持込み備品は限られる。連れ合いの遺影やお気に入りの机や椅子、テレビ、家族写真等が飾られ、居心地良い居室となるよう工夫が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は多数手すりがあり、歩行時、訓練時、安心して掴まれる環境とされている。トイレ、浴室内も余裕のある広さが確保されていて、利用者様のできる範囲内の自立動作が行いやすい環境となっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600116		
法人名	株式会社 赤坂台介護サービス		
事業所名	グループホーム喜ら里(2F)		
所在地	愛知県豊川市赤坂町北平山51-5		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2392600116-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「喜ら里(キラリ)とかがやく一日をみなさまと共に」をモットーに、利用者様と職員が輝ける一日を過ごせるように努めております。利用者様へのおもてなしの心を忘れずに、職員自身も活き活きと楽しく対応しております。地域のボランティア様の協力を頂きながら、外出し社会参加に心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「喜ら里(キラリ)とかがやく一日をみなさまと共に」を理念として、職員は利用者様とともに楽しくアットホームに過ごせる環境づくりと、その意識の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手品師や音楽療法の先生など複数のボランティアなどの訪問が定期的に行われている。「喜ら里クラブ」というボランティアの支援で、地域への外出やイベントも頻繁に行われ、地域との密着は強い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお祭りやイベントにおいては、地域の一般の方にも参加してもらい、認知症に対する理解を深める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や、家族様からの意見はすぐに実践で反映させ、サービス向上へつなげるよう意識している。地域のボランティアや民生委員にも現状を報告することで、運営への理解をして頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、市の介護高齢課に相談し、必要がある時は足を運んでいる。また、市の連絡協議会にも定期的に参加し、情報交換や研修などの取り組みを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じて、職員間で利用者様への拘束禁止についての意識の共有は行っている。利用者様の意思を尊重することで、転倒、徘徊のリスクはともなうが、職員間での連携を強化し、拘束とならないような見守りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の利用者様との関わりの中で、ささいな身体や言動の変化にも注意を払い、職員間でしっかり情報を共有することで、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットで取り寄せた資料で学ぶ機会を設けている。必要時には制度を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、面談を行い、しっかりと説明をすることで利用に対する理解を頂いている。契約後も不明な点については、随時、質問や相談を受け、利用者様やその家族の理解の向上に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方から意見要望があった場合、ミーティングや業務日報などを通じて申し送り、職員間で共有を行っている。運営推進会議に利用者様、家族ともに参加してもらい、意見を頂いて反映に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や困難な場面对応については、随時報告をしてもらっている。職員間での定期的な情報共有ミーティングも行い、日々の業務に反映させる環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課において、昇給、賞与を決めている。職員との面談時に、要望や悩みなども聞き、よりよい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数によってアドバイスをしケアの実践に努めている。困っていることは随時、相談をできる環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社や施設開設前研修の受け入れや、他者の会議に参加させてもらうことで、勉強・交流の機会がある。ケアマネなどの施設見学や訪問がある。合同の防災訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず面談を行い、利用者様ご本人の生活歴や心身状態を把握し、希望や要望を聞く機会を設けて、不安の軽減に努めている。利用前には、全職員が基本情報を把握し、受け入れ態勢を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、家族からの希望や不安、心配ごとなどを聞き取り、適確なサービスがすぐに行える態勢を整えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の聞き取りで、利用者様に応じた適確なサービスが行える対応に努めている。他のサービス利用については、関係事業所の担当者を含めた話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事、レク等の日常生活を通して利用者様、職員、利用者様同士がお互い協力したり、気をかけたり、ともに暮らす者同士で良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族の方の思いや、家族の関係を理解した上で、随時相談、話し合いを行うことで、利用者様本人を支えていく為の協力関係の構築に努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に隣接していたデイサービス利用者との交流や、知人、友人の訪問で談話をされる機会も多く、これらが行いやすい環境づくりや支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考慮した上で、座席の配慮や、支障なく関わり合えるような環境づくりに努めている。重度の認知症の方は特に孤立しないよう、意識して関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も、家族から連絡があれば、随時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の業務日報や申し送り、定期的なミーティングなどを通じて利用者様からの言葉や思い、職員の気づきなどを共有し合い、話し合うことで、実践に繋げるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の利用者様との会話にしっかりと耳を傾け、ご本人の生活歴や趣味・嗜好などを把握し、理解に努める。ご家族の来所時などに、利用の状況、経過等を話す機会ができるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向をもとに、「暮らしまとめシート」を作成し、職員は利用者様のできること、できないことに着目し、把握した上で、日々の介助や支援に携わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日々の変化やモニタリングを通じて、家族や利用者本人様との話し合いで課題を挙げ、それに即した介護計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとにケース記録、バイタル表、食事量、サービス内容の変更、連絡事項などを記入し、職員間の情報共有を行っている。それによるプランの見直しも同時に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ごとの心身状況、家族の介護状況の変化にも目を配り、随時適切な介護サービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じたイベント(遠足、祭り、畑作業)、外出(外食、買い出し、散歩)など、地域のボランティアの方には適宜、支援して頂き、地域とは深く関わりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望したかかりつけ医、もしくは専属の病院の往診という形をとっている。通院は家族対応。特変時は必要に応じ職員が受診に同行、説明し、医師より適切な指示を仰ぐ。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は看護職員に報告し、対応している。医療面では、看護師より家族に連絡し、受診する場合は適切な指示を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院の相談員、看護師に伝えている。入院中は必要に応じ訪問し、退院に向けた情報交換や相談を行っている。職員間でも入院利用者様の情報共有をはかり、退院後の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に利用者様の家族には終末期についての希望や意思の確認を行っている。主治医、各関係事業所と連携を図りながら事業所としてできる支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングを行い、利用者様の急変時の対応について話し合いや周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時には地域のボランティアの参加、協力を求め、平日頃より協力体制ができていいる。訓練後は各職員が訓練の反省、改善点を挙げるなどして今後活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに対し、人格や個性を尊重し、ご本人の思いに寄り添う声掛けや対応、支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導ではなく、利用者様本人が希望、要望を言いやすい環境づくり、雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	工作、ゲーム、気の合う方との会話など、利用者様一人ひとりが希望する事、楽しみにしている事を把握し、個々のペースに合わせた支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や環境に応じて、個々に合わせた身だしなみの支援、見守りを行っている。自己での判断が難しい方は、ワンパターンにならぬよう、定期的な服の入替、確認などの支援を随時行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で手作りであり、利用者様の嗜好、体調などに合わせて献立を変えて対応している。調理の一部や片付けなど、できる範囲内では自分で行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様ごとに適切な食事量、食事形態についての名札を作成し、全職員が把握できるようにしている。食事量は毎回記録し、体調に応じて食べやすいよう、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品の準備、保管は事業所にて行い、自己にてできる方には声掛けと見守り、自己ケアが困難な方は程度に応じて、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、介助が必要な方には声掛けと誘導、自立している方は見守り、様子観察にて排泄感覚や失禁の有無を確認し、個別の適切な排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様ごとに排便状態や体調、服薬状況等を把握し、水分補給や運動、服薬等で便秘を改善できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や順番等に配慮して行っている。拒否のある方は、タイミングや声掛けを検討し、職員で統一を図り支援している。一人ずつ、ゆったり入浴を楽しんでもらうよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や個人の休息の取り方など、利用者様本人の希望や意見を尊重している。食後や体調が優れない時など、本人の気分に合わせて休息しやすい環境づくりや支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに、服薬情報を個人ファイルに保管しており、全職員が把握できるようにしている。日々の状態を記録し、薬が変わった時は家族と連携を図って症状を報告するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとに暮らしのなかでのこだわりやできることに着目し、得意なことやできる事は積極的にやって頂く環境を提供し、参加してもらっている。毎月、外食や外出が必ずあり、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気分に合わせて、戸外へ散歩に出かけるようにしている。利用者様の要望に合わせて、外食、外出などのイベントを企画している。行事の時は、ボランティアの方に協力を頂き、地域との繋がりも深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い出し時は、利用者様ご本人の希望をお聞きして、買い物をしている。外食時も、ご本人が食べたいものを選んでもらって食事を楽しめる環境づくりの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に応じて、利用者様が作成した壁飾りを掛けて季節感を感じて頂けるようにしている。利用者様が心地よく過ごせるような環境の提供を常に心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様ごとに希望に合わせて、一人でくつろげるよう座席の配慮をしたり、気分次第では居室でもゆっくり休んで頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた枕や掛物、置き物などを配置することで、少しでも自宅にいた時と同じ環境に近づけることで穏やかに過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は多数手すりがあり、歩行時、訓練時、安心して掴まれる環境とされている。トイレ、浴室内も余裕のある広さが確保されていて、利用者様のできる範囲内の自立動作が行いやすい環境となっている。		